



放射線医学総合研究所

参考 1



平成27年 3月25日

NIRS 放射線医学総合研究所の組織及び人員について

職員数 (2015.1.1現在)

—役員:5名
 理事長 1名
 理事 2名
 監事 2名(うち非常勤1名)

—常勤職員:454名
 定年制職員:330名
 ・事務職:112名 ・研究職:108名
 ・医療職:87名 ・その他:23名

任期制職員:124名
 ・事務職:33名 ・研究職:59名
 ・医療職:9名 ・その他:23名

—非常勤職員
 任期制職員:375名
 ・事務職:66名 ・研究職:68名
 ・医療職:42名 ・その他:199名

平成26年度予算額:123億円

うち、運営費交付金 : 98億円
 ・一般会計 : 93億円
 ・復興特別会計 : 5億円

うち、施設整備費補助金 : 3億円
 ・一般会計 : 3億円
 ・復興特別会計 : 0億円

うち、自己収入 : 22億円

理事長
理事

監事

企画部 38、(6)

総務部 33、(19)

※数字は、
常勤職員、(非常勤職員)
の人数を示す。

《放射線科学領域における基盤技術開発》

研究基盤センター 66、(39)

運営企画ユニット、研究基盤技術部、情報基盤部、安全・施設部

《放射線の医学的利用のための研究》

重粒子医科学センター 158、(126)

運営企画ユニット、医療情報室、AI情報研究推進室、放射線治療品質管理室、病院、物理工学部、融合治療診断研究プログラム、次世代重粒子治療研究プログラム、先端粒子線生物研究プログラム、国際重粒子医科学研究プログラム

分子イメージング研究センター 72、(59)

運営企画ユニット、分子認識研究プログラム、先端生体計測研究プログラム、分子病態イメージング研究プログラム、分子神経イメージング研究プログラム

《放射線安全・緊急被ばく医療研究》

放射線防護研究センター 29、(45)

運営企画ユニット、発達期被ばく影響研究プログラム、リスク低減化研究プログラム、規制科学研究プログラム

緊急被ばく医療研究センター 19、(26)

運営企画ユニット、被ばく医療研究プログラム、被ばく線量評価研究プログラム

《福島への復旧・復興への支援とそれを支える研究》

福島復興支援本部 22、(29)

運営企画ユニット、環境動態・影響プロジェクト、健康影響調査プロジェクト、長期低線量被ばく影響プロジェクト

REMAT(緊急被ばく医療支援チーム) 7、(6)

人材育成センター 3、(13)

医療被ばく研究プロジェクト 3、(5)

特別上席研究員 2、(1)

監査・コンプライアンス室 2、(1)

研究開発病院

重粒子医科学 センター

- ・炭素線でがんを治す
- 重粒子線がん治療に関する臨床研究
(治療患者数約8,500人) -

分子イメージング 研究センター

- ・放射線で生命活動を見る
- 分子イメージング技術でがんや精神疾患の診断に応用-

放射線防護 研究センター

- ・放射線のリスクを計る
- 放射線安全研究、国民の被ばく実態調査

緊急被ばく医療 研究センター

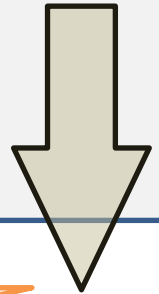
- ・被ばく事故から救う
- 緊急被ばく医療研究
(防災基本計画における被ばく医療の中心)

支援

研究基盤センター

基盤技術と研究環境の整備・管理

高度な技術開発と安全な研究環境の提供、効率的な研究資源の活用



シーズの発見、融合分野の研究、
新しい手法による研究

研究成果の活用

萌芽的研究
創成的研究
共同研究

医療被ばく
評価研究

研究成果の
普及と活用

人材育成センター

人材育成・研修事業

REMAT

原子力災害時の被ばく
医療及び体制整備

福島復興支援本部

復旧作業員等の健康影響調査

低線量・低線量率放射線の影響研究

環境動態研究

原子力や放射線利用における国民の安全確保と安心の醸成に貢献するため、放射線の健康および環境への影響に関する研究を進めるとともに、科学的データを収集・解析して、国民にわかりやすく提供する。



緊急被ばく医療体制

全国の中核

放 医 研

緊急被ばく医療ネットワーク
染色体ネットワーク
物理学的線量評価ネットワーク

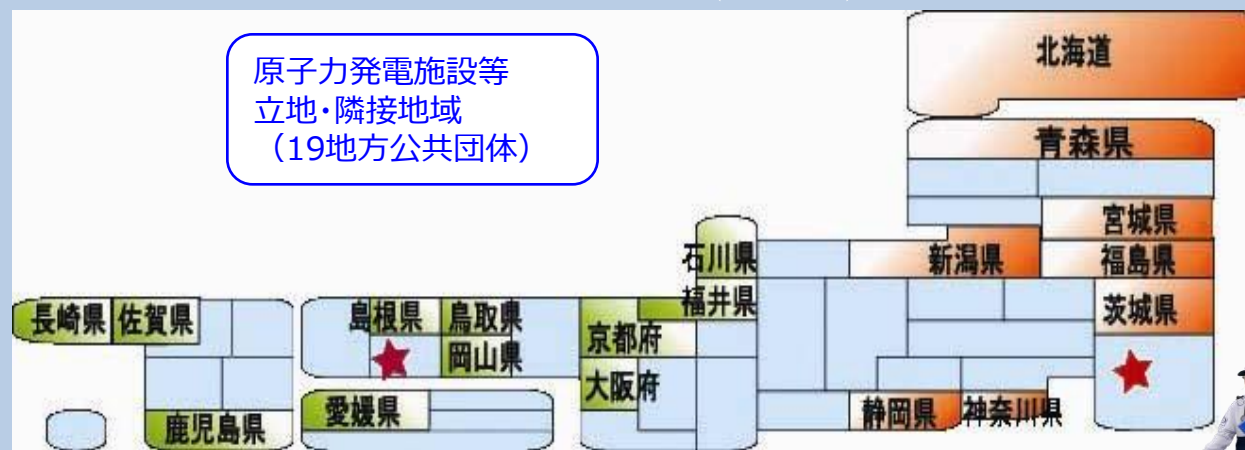
地域レベル

広島大学

協力・連携・
情報の共有

放 医 研

原子力発電施設等
立地・隣接地域
(19地方公共団体)



東京電力福島第一原子力発電所事故への対応

国の被ばく医療機関として、被ばく医療の中核的な機能を果たしている。

- 専門医師の派遣
- 高線量被ばく患者の受け入れ
- 内部被ばくの検査
- 情報発信 その他

緊急被ばく医療支援チーム (REMAT)

海外の放射線被ばくや汚染事故の現場で初期医療を支援。

医療活動、線量評価や放射線防護の専門家が参集。

国内対応 2010のAPEC 等

人材育成

緊急被ばく医療のための訓練
(国内外対象)



防災訓練風景

被ばく患者の治療

- 被ばくの形態や放射性物質の確定
- 被ばく線量の推定
- 治療方針の決定、病態の予測

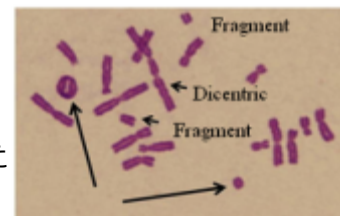


緊急被ばく医療
トレーニング

染色体異常を用いた
被ばく線量評価

放射線障害研究

- 急性放射線障害の研究
- 新しい治療法開発
- 迅速な線量評価法開発
- データベース作成



国際協力



IAEA研修



WHO研修

- 国内外の研究者及び技術者等を受け入れ、研究所の特徴を活かした人材育成に積極的に取り組む。
- 福島復興再生基本方針、原子力被災者等の健康不安対策に関するアクションプランに基いた人材育成を実施する。

放医研の人材育成事業（概要）

1960年 放射線防護課程～2013年

1965年 RI生物学基礎医学短期課程開催～2005年 ライフサイエンス課程

1978年 環境放射線モニタリング技術課程～2005年 環境放射線科学リフレッシュセミナー

1980年 放射線緊急被ばく救護訓練課程～2013年 NIRS放射線事故初動セミナー

1997年 緊急被ばく医療セミナー～2013年 NIRS被ばく医療セミナー

1994年 放射線看護課程～2013年（年5回5日間）



★原発事故対応として求められる研修を平成24年度に引き続き**定期的に設ける**（平成23年度は臨時的に実施）と共に、関連する人材育成の委託事業等を積極的に受けることとした。

東電福島第一原発事故後、福島県をはじめ各地から、放射線の健康影響や被ばく医療の研修を求める声が大きくなった。このため、“福島原発事故”対応に研修を設け、約400名、3年間で約1,000名の参加をみた。

平成25年度原発事故対応研修

- ・ NIRS放射線事故初動セミナー（追加）
- ・ NIRS被ばく医療セミナー（定員増、追加2回）
- ・ 自治体職員向け放射線基礎コース
- ・ 教員向け放射線基礎コース
- ・ 染色体セミナー（2回）
- ・ 放射線医学セミナー（福島県高校生）
- ・ 保健医療関係者等に対する放射線の健康影響等に関する研修（基礎2回、応用（新規）1回）
- ・ 宮城一高（依頼、新設）
- ・ 千葉市未来の科学者育成プログラム（千葉市委託）
- ・ 小学生サイエンスキャンプ（福島県と千葉市、新設）
- ・ 国民保護CRテロ初動セミナー（新設）

研修受講者数の推移

